

## 国と人の境界線

弁護士法人大江橋法律事務所  
弁護士 竹田 昌史

PROFILE

先日、年に一度の社員旅行で中国南部の広西チワン族自治州に行ってきました。普段、高層ビルに囲まれた上海で生活していると、見渡す限り山と緑と水田が広がる中国南部ののどかな風景は、日頃の喧騒を忘れさせてくれるものでした。

今回の旅行の見どころの一つは、中国とベトナムの国境地域にある「徳天瀑布」（写真）というアジア有数の規模を誇る滝の観光でしたが、中国の様々な側面も垣間見えて非常に印象的でした。徳天瀑布（ベトナム語では「バンゾック滝」という名前らしいです）は二つの国を跨ぐ滝としてはアジア最大級の滝で、川とその上流にある滝が中国とベトナムの国境線に重なっており、中国側の展望台から川を眺めると、対岸にいる大勢のベトナム人観光客の姿を見ることができ、川と滝を隔てて両国の人達が顔を合わせる不思議な光景でもありました。



川が国境を隔てるという意味では、私は以前中国の東北地方で、中国と北朝鮮の国境沿いの川に行ったことがあるのですが、そこでは、川を隔てた向こう側に広がる北朝鮮側の農村地帯と中国側の経済的に豊かな街の風景が非常に

対照的であったことを思い出しました。

徳天瀑布でもう一つ印象的だったのが、旅行ガイドさんの何気ない一言です。徳天瀑布を観光するルートは、大きく川沿いの歩道を歩いて滝の奥まで行くコースと歩道の途中で船に乗って滝の近くまで近づくコースがあります。私は船に乗るコースを選んだのですが、いずれのルートを選んでも、ガイドさんの注意事項としては、絶対に川を渡ったり又は上流の山道からベトナム側に行ってはいけないというものでした。時々、好奇心で目と鼻の先にあるベトナム側に渡ろうとする観光客がいるらしく、絶対に守ってくださいと言うのです。当然ですが、観光地とはいえ国境線ですから、無断で国境を超えることはできません。

もっとも、ガイドさんに、地元の人達も川を渡ることを厳しく管理されているのかと聞いたところ、驚いたことに、地元の人達の中には親戚や友人がベトナム側に住んでいる人もおり、時折、ビザなど取らずにお互いに往来しているというのです。地元の警察も、行き来する地元の人達とは顔見知りで、その顔や人間関係をよく知っているので、特に咎めることもないらしいのです。ガイドさんに言わせると、国境は国と国がつくったもの、血縁は人と人がつくったものだから、人の行き来は止められないよね、というのです。何気ない一言でしたが、外国人の私にとっては、14億人の人口を維持するための建前と現地の人達の生活に根差した習慣がうまく融和した風景にみえました。

なお、船を下りた直ぐ近くには、SNS投稿用の人気撮影エリア（中国語：「打卡点」）があり、皆さん、老若男女問わず、撮影エリアで専用の撮影スタッフにポーズの指導を受けながらコーヒーを片手に写真撮影しており、90年代に中国を旅行した際に、あまり写真撮影を好まなかった中国の人達の意識の変貌ぶりも楽しむことができました。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ☒メールアドレス：[info\\_china@ohebash.com](mailto:info_china@ohebash.com)

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみに依拠されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。